

ふかめる

分かる快感！

Z会ナビ

算数 理科 ▶社会

お題

江戸時代には
4回暦が変わった？

(2020年 東京大学 白本史)

おうちで楽しく！
プログラミング通信講座、
Z会にて開講中！

Z会 KOOV 検索

次の文章を読み、江戸時代に暦を作る際に、参考にした知識が時代とともにどのように変化していったか、説明しなさい。

(1) 日本では古代より中国の唐でつくられた暦が長らく使われてきた。渋川春海は唐よりも新しい時代の元の暦をもとに、明でつくられた世界地図も見て、中国と日本の地球上の位置の違いも検討し、貞享暦を考えた。江戸幕府はこれを採用し、天体観測や暦づくりを行う役所として天文方を設置し、渋川春海を任じた。

(2) 1755年から使われた宝暦暦は日食の予測に失敗した。幕府は天文方の人員を増やして暦の修正を進め、天文方の天文学研究をより推し進めていった。

(3) 天文方の高橋至時は、清でつくられた西洋天文学の書物をもとに1797年、寛政暦をつくった。天文方を継いだ高橋至時の子・渋川景佑は、オランダ語の天文学の書物を翻訳し、これを生かして1842年に天保暦をつくった。



イラスト：瑞木匠

12月になり、2020年も終わりに近づいていますね。今回は生活にもなじみ深い暦の歴史の問題です。現在日本で使用している暦は地球から見たときの太陽の動きをもとにつくられた「太陽暦」ですが、太陽暦が日本で採用されたのは明治時代のことで、それまでは月の動きをもとに、太陽の動きも加味してつくられた「太陰太陽暦」が使われていました。今回は太陰太陽暦が使われていた江戸時代の暦について見ていきましょう。

暦とは？

暦は、季節の移り変わりによる気候の変化に対して、食べ物を計画的に生産し、確保する必要性から生まれました。気候の変化をある程度予測可能にすることにより、種まきや収穫などの農作業を計画的に進められるようにしていたのです。中国では、農業のほか、川の洪水の予測や潮の干満を予測し航海に役立てるために、月の動きをもとにした太陰太陽暦が使われていました。日本でもその中国の暦を輸入し、使用していました。

現在日本で使用している太陽暦でも暦と実際の太陽の動きのずれを修正するためのうるう日が設定されていますが(4年に1度ある2月29日がうるう日です)、月の動きをもとにした太陰太陽暦でも暦と実際の季節のずれが発生するため、天体観測などによりうるう月やうるう日を設定して定期的に修正することが必要でした。しかし、日本では862年より、当時の中国の唐でつくられた暦をそのまま使用しており、800年たった江戸時代の頃には暦と季節に大きなずれが生じてしまっていました。

日本独自の暦をつくる挑戦

暦と季節のずれを解消するために、江戸時代に日本独自の暦がつけられました。その先駆者が(1)に登場する渋川春海です。渋川春海は、これまでの唐の暦ではなく元(鎌倉時代ごろの中国の王朝)の暦をもとに、中国との地球上の位置の違いも考慮し、天体観測を重ねて初めての国産の暦を作成しました。渋川春海の暦の編さんを機に、幕府に天文方という役所がつくられ、天体観測と暦の研究が行われるようになりました。江戸時代の間には、渋川春海の暦も合わせて4回、日本独自の暦が作成されました。その後、明治時代になって1873年にヨーロッパの国々と同じ太陽暦が導入され、現在に至っています。

暦の作成に必要な情報は

暦の作成には、太陽や月などの天体に関する学問である天文学の知識や理解が不可欠でした。

問題文を読むと、天文学の知識の入手元が(1)中国の暦と中国の地図から、(3)ヨーロッパの天文学の書物へと変化していることがわかります。江戸幕府は鎖国政策で外国との交流を制限していました。とくにキリスト教については幕府による支配を脅かす存在と警戒しており、キリスト教の布教に結びつきやすいヨーロッパとの交流を制限していたため、渋川春海が暦を作った際には中国の情報しか頼りにできなかったのです。

江戸時代なかばになるとヨーロッパの学問が役立つことがわかり、中国で翻訳された洋書の輸入制限が緩和されるようになります。江戸時代後期にはオランダからもたらされるヨーロッパの学問(蘭学)研究がますます盛んになり、オランダの資料に直接当たれるようになりました。宝暦暦のような失敗もありますが、さまざまな情報に当たれるようになったことで、暦の研究も発展していったのです。

(Z会・河原井彩)

！
今回の
教訓

当たり前存在である暦も、できあがるまでには多くの人の努力があったことがわかります。

河原井彩さん 2007年に入社。中学生向け社会、高校生向け日本史教材の編集を経て、現在は幼児向け教材を担当。新潟県生まれの埼玉県育ち。